

警察監獄学会及び『警察監獄学会雑誌』検討一斑（三訂稿）

—明治警察史の一齣—

（令和 4（2022）年 8 月 10 日（水）現在）

〔目 次〕

（追記）	1
（補正経緯）	2
1 はじめに	3
2 警察監獄学会とは何ぞ	4
3 『警察監獄学会雑誌』とは何ぞ	5
【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）	7
【関連事項】	8

（追記）（平成 26（2014）年 6 月 15 日追加）

最近下記の二点が判明した。本来であれば、これらを踏まえて検討し、本稿を書き改める必要があるが、現状では如何ともし難く、ただこのことのみを記載しておく。

* 1 近時矯正図書館 HP 〈<http://www.jca-library.jp/>〉中に「デジタル公開資料」〈<http://www.jca-library.jp/kangokukyokaizassi/index.html>〉があり、現在では、「『監獄協会雑誌』・『監獄雑誌』の明治・大正期に発行された全文を PDF 形式でご覧いただけます。」との由であり、続いて、次のように記載されている。

「監獄協会雑誌:

『監獄協会雑誌』は明治 21 [1888] 年『大日本監獄協会雑誌』の名称で創刊され、現在『刑政』として引き継がれています。

▶大日本監獄協会雑誌 第 1 号（明治 21 [1888] 年 5 月）～第 127 号（明治 31 [1898] 年 12 月）

▶監獄協会雑誌 明治 32 [1899] 年第 1 号（明治 32 年 7 月）～第 35 巻第 10 号（大正 11 [1922] 年 10 月）

▶刑政 第 35 巻第 11 号（大正 11 [1922] 年 11 月）～第 39 巻第 12 号（大正 15 [1926] 年 12 月）

監獄雑誌:

『監獄雑誌』は警察監獄学会から明治 22 年『警察監獄学会雑誌』の名称で創刊され、明治 32 [1899] 年『大日本監獄協会雑誌』と合併して『監獄協会雑誌』となりました。

▶監獄雑誌 第1号（明治22〔1889〕年11月）～第10巻第6号（明治32〔1899〕年6月）

〔改題：『警察監獄学会雑誌』（第1号（明治22年）～第3巻第7号（明治25年））⇒『警察監獄学雑誌』（第3巻第8号（明治25年）～第3巻第10号（明治25年））⇒『監獄学雑誌』（第3巻第11号（明治25年）～第4巻第4号（明治26年））⇒『監獄雑誌』（第4巻第5号（明治26年）～第10巻第6号（明治32年））〕

*2 倉持史朗「『大日本監獄協会雑誌』の書誌的研究—大日本監獄協会の組織・活動と監獄改良論を焦点として—」『天理大学学報』第63巻第2号（平成24年2月刊）87～107頁、特に92～95頁「3 『大日本監獄協会雑誌』の発刊と『監獄雑誌』合併をめぐって」参照。

〈<https://opac.tenri-u.ac.jp/opac/repository/metadata/search/030000063/>〉

〈<https://opac.tenri-u.ac.jp/opac/repository/metadata/3238/GKH022906.pdf#search='%E5%A4%A7%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%9B%A3%E7%8D%84%E5%AD%A6%E4%BC%9A'>〉

（補正経緯）

HP 初出：平成22（2010）年12月6日（月）初稿作成

平成22（2010）年12月26日（日）改訂稿作成

（一部追加、誤植訂正）

平成26（2014）年6月15日（日）再訂稿作成

（冒頭に（追記）を追加。一部追加、誤植訂正）

令和4（2022）年8月10日（水）三訂稿作成

（レイアウトの全面変更した上で、一部補正追加した。）

1 はじめに

去る平成 22 (2010) 年 9 月、江戸時代の法医学書『無冤録述』の明治復刻本である『変死傷検視必携 無冤録述 完』(奥付に「警察監獄学会蔵書」とある。発行人: 磯村兌貞、明治 24 (1891) 年 10 月 23 日刊) を見ることがあった¹が、その発行元と思われる「警察監獄学会」について、当時、下記のようなことを、備忘録に誌した。

「・警察監獄学会とは何ぞ?

・明治 24 (1891) 年 10 月警察監獄学会刊行本 (『変死傷検視必携 無冤録述 完』(磯村兌貞、明治 24 年 10 月 23 日刊)) とは何ぞ?

・「発行人: 東京市四谷区荒木町廿二番地 磯村兌貞、印刷人: 東京市四谷区荒木町廿二番地 近藤釵二郎」とは誰ぞ?

⇒「東京市四谷区荒木町廿二番地」は、当時の警察監獄学会所在地か?

・国立国会図書館近代デジタルライブラリー: [〈http://kindai.ndl.go.jp/〉](http://kindai.ndl.go.jp/) で、「警察監獄学会」を検索すると、10 件検索できるが、警察監獄学会はいつまで存在したのか?

ちなみに、監獄行政は、当初内務省所管であったが、明治 36 (1903) 年 3 月、監獄官制が公布され、すべての監獄は司法省の直轄するところとなっている。

・『警察監獄学会雑誌』は、明治 23 (1890) ~ 25 (1892) 年刊行分を確認でき、後継雑誌は、『監獄協会雑誌』との由。⇒国会図書館所蔵分は現在マイクロ化作業中で閲覧できず。他には、矯正図書館所蔵分があるようであるが、ただちに見ることはできない。⇒よって、当該雑誌検討は他日に譲る。(上記(追記)参照。)

・また、警察監獄学会刊行本は、例えば、国立国会図書館近代デジタルライブラリーでは、大正 7 (1918) 年刊の下記『探偵術問答』まで閲覧できるが、同書奥付によれば、編纂者の警察監獄学会について「右代表者兼発行者 横尾留治」とある。「横尾留治」は松華堂主人¹であることからして、この頃の警察監獄学会は、既に名目上のものか?。なお、本 HP 別稿「松華堂乃至松華堂書店とは何ぞや—明治警察史の一齣—」(平成 21 (2009) 年 6 月 22 日初稿作成、平成 23 (2011) 年 1 月 30 日(日)改訂稿作成)参照。

[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shokado.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shokado.pdf)

「タイトル : 探偵術問答 タイトルよみ : タンテイジュツ モンドウ 責任表示 : 警察監獄学会編 出版事項 : 東京: 松華堂, 大正 7 形態 : 317 p ; 15 c m NDC 分類 : 317.7」

・『警察監獄学会雑誌』の刊行年月は第 1 巻第 1 号(明治 23 年 3 月刊) ~ 第 3 巻第 10 号(明治 25 年 6 月刊)(第 3 巻第 10 号は「警察」、「監獄」の 2 冊が存在し、冒頭に「本誌改良広告」、「雑誌の分離に就いて一言す」あり。(平成 26 年 6 月 15 日追加)) で、継続後誌は、『監獄学雑誌』(警察監獄学会、第 3 巻 11 号(明治 25 年 6 月刊?) ~) との由である。かなり前に、ヘーン大尉(1839~1892)、松井茂久(1862~1890)各検討の件で、同

¹ 本 HP 別稿「『無冤録述』の初歩的検討—江戸期及び明治警察史の一齣—」(平成 22 年 9 月 26 日初稿作成) [〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf)、「続・『無冤録述』の初歩的検討—江戸期及び明治警察史の一齣—」(平成 22 年 12 月 6 日初稿作成)

[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsuzoku.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsuzoku.pdf) 各参照。(平成 22 年 12 月 26 日一部追加)

誌を閲覧したことがあった。

その後、一、二検討する機会があったので、取り急ぎ、以下に、記載しておくこととする。未だ不十分なものであり、更に補正に務める所存である。

2 警察監獄学会とは何ぞ

「警察監獄学会」とは、一種の警察関係出版社である。例えば、「警察監獄学会」関係刊行と覚しきものを二、三挙げると、以下のとおりである。これよりすると、「警察監獄学会」主宰者は、磯村松元—磯村兌貞—磯村政富と磯村家の人物が続くも、明治30年代前期に、同家によるものは、何故か「警察学会」に変わり、「警察監獄学会」は、別人により続けられたものと推測される。

・小河滋次郎（1864～1925、明治大正期の監獄学者）『日本監獄法講義』（発行者：磯村松元（東京府四谷区荒木町22番地）、明治23年12月1日刊。復刻本：日本行刑史研究会（代表 重松一義（1931～）、昭和51年6月30日刊）

・『変死傷検視必携 無冤録述 完』（奥付に「警察監獄学会蔵書」とある。発行人：磯村兌貞（東京市四谷区荒木町廿二番地）、明治24年10月23日刊）

・小河滋次郎（1864～1925）『看守必携獄務提要』（発行者：磯村兌貞（東京四谷区荒木町23番地）、明治24年10月23日刊）⇒巻末広告「警察監獄学会出版物予告」として、『日本監獄法講義（四版）』等を記載している。（近代デジタルライブラリー所蔵）

・小河滋次郎（1864～1925）『監獄学 全』（発行所：警察監獄学会東京支会（東京府四谷区荒木町27番地）、発行者：磯村兌貞（東京府四谷区荒木町27番地）、明治27年7月24日刊）（近代デジタルライブラリー所蔵）

・太田政弘（1870～1951、警視總監、台湾総督）・加藤正雄『警察官練習要書』（発行所：警察監獄学会（東京市四谷区愛住町二番地）、発行者：磯村政富（東京市四谷区愛住町二番地）、明治32年7月15日刊）（近代デジタルライブラリー所蔵）

・太田政弘・加藤正雄『警察官練習要書（再版）』（発行所：警察学会（東京市四谷区愛住町二番地）、発行者：磯村政富（東京市四谷区愛住町二番地）、明治33年11月16日刊）（近代デジタルライブラリー所蔵）

⇒この時点で、発行所が「警察監獄学会」から「警察学会」に変更されている。

・『変死傷検視必携 無冤録述 完』の矯正図書館所蔵本（ネットでの検出題名：『変死傷検死必携 無冤録述』）は、明治34（1901）年刊（326.7-To-7697）の第六版（「発行人 東京市四谷区愛住町二番地磯村政富、発行所 警察学会」との由。）とのことであるが未見（<http://www.jca-library.jp/>）。

・松井茂（1866～1945）『伯林警察沿革史』（発行所：警察監獄学会（東京市神田区今川小路3丁目4番地）、発行者：津田利八郎（東京市神田区今川小路3丁目4番地）、明治36年12月22日刊）（近代デジタルライブラリー所蔵）

⇒「警察監獄学会」の発行者が、磯村家人物から別人に変更されている。

・佐々木秀司（1880～1934）・鳩山一郎（1883～1959）『警務練習新書』（発行所：警察学会（東京市四谷区愛住町二番地）、発行者：磯村政富（東京市四谷区愛住町二番地）、明治41年12月5日刊）

・前述のように、警察監獄学会刊行本は、例えば、国立国会図書館近代デジタルライブラリーでは、大正7（1918）年刊の『探偵術問答』まで閲覧できるが、同書奥付によれば、編纂者の警察監獄学会について「右代表者兼発行者 横尾留治」とある。「横尾留治」は松華堂主人その人であることからして、この頃の警察監獄学会は、既に名目上のものなのか？。横尾留治については、上記本 HP 別稿「松華堂乃至松華堂書店とは何ぞや—明治警察史の一齣—」（平成21（2009）年6月22日初稿作成、平成23（2011）年1月30日（日）改訂稿作成）参照。〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shokado.pdf>〉

3 『警察監獄会雑誌』とは何ぞ

・上述のように、『警察監獄学会雑誌』については、今回は故あって見ることはできないと思っていたところ、最近、かつて平成18（2006）年5月頃さる識者に同誌創刊号についてお教えいただいていたことを思い出した。よって、原本未見のまま、これに基づき、一、二誌しておく。（上記（追記）参照。）

・警察監獄学会発行の『警察監獄学会雑誌』第1号であるが、明治22（1899）年11月に刊行されている。詳しくは不明であるが、巻頭に、「論説」として「清浦〔奎吾、1850～1942〕警保局長講談 其一」等三本があり、その後、長野県書記官小野田元瀨（1848～1919）²「警察監獄会雑誌ノ発刊ヲ祝ス」（24～25頁）が掲載されている。以下に小野田論稿の一部を抽出しておく（同稿使用の合略仮名は通用のものに変えた。）。

「警察監獄学会雑誌の発刊ノ発刊ヲ祝ス 長野県書記官 小野田元瀨稿 [中略] 此等ノ法理及応用ノ適例ヲ記速 [マ] セル雑誌若クハ講義録ヲ発刊シテ広ク之ヲ頒布スルニ若クモノナシ近時我邦法律ニ関スル雑誌講義録ノ類陸続発刊セラレ汗牛充棟音ナラスト / [改頁] 雖モ警察法監獄則ノ原理ヲ説キ応用ヲ示スモノニ至テハ未タ完全ノモノ之アラス余ヤ之ヲ憂フルコト久シ矣恰モ好シ余ガ知友相謀リテ曩ニ警察監獄学会ナル者ヲ創設シ今又一雑誌ヲ発刊セラルト聞ク余ノ欣喜何物カ之ニ如カン余亦頃日泰西監獄問答録ナル一書ヲ著シ今正ニ出版シ以テ世ニ公ニセントス故ニ爾後之等ニ関スル私見アラハ時々之ヲ投寄シ貴誌ノ余白ヲ瀆スコトアルベシ聊カ蕪辞ヲ呈シ以テ祝詞ニ代フ」

・この他、巻頭に、「謝告」があり、続いて、「[コピー不備で冒頭部分は読めず] 警察監獄学本科別科講義録ノ外更ニ之ニ関スル一雑誌ヲ発行シ警察監獄両衙ノ機関ニ供シ併セテ本会会員諸君ヲ利スル目的ヲ以テ [中略] 警察監獄学会 主管 磯村松元」とあり、その

² 高橋雄豺（1889～1979）序 川島維知（館林市立図書館長）監修・小野田元一著『小野田元瀨』（昭和44年1月執筆、小野田元瀨五十年祭記念出版、栃木・小野田元一（小野田元瀨曾孫）自己出版、昭和44年2月15日刊）（この他、70頁に高橋博士の「発言」あり。小野田元瀨：嘉永元（1848）年2月11日～大正8（1919）年6月12日、「泰西見聞誌」の筆記者、内務省警保局長、貴族院議員）、高橋雄豺『明治警察史研究 第4巻（前編）—明治年代の警保局長—』（令文社、昭和47年7月10日刊）307～352頁（17 小野田元瀨）各参照。

後、続けて、「会員募集広告」がある。

・これらからすると、警察監獄学会は、当時よくあった民間の会員制警察関係出版社的なものであり、そこが、明治 22 (1889) 年 11 月に『警察監獄学会雑誌』を発刊したものと思われる。なお、国会図書館「書誌一覧表示」に拠ると、『警察監獄学会雑誌』は、第 3 巻第 10 号 (明治 25 年 6 月) まで確認でき、後継雑誌は、『監獄学雑誌』であるとのことである³ (国会図書館所蔵: 第 3 巻第 11 号 (明治 25 年 5 月刊) ~ 第 4 巻第 4 号 (明治 26 年 5 月刊)) (第 4 巻第 5 号から「監獄雑誌」に改称) (平成 26 年 6 月 15 日追加)。

他方、『警察協会雑誌』の母体となった田山宗堯 (1859~1917) ⁴の『不眠不休 警察眼』第 1 号 (警眼社刊) は、明治 25 (1892) 年 7 月に第 1 号⁵が出ている。年代からして、『警察監獄学会雑誌』と『不眠不休 警察眼』との対比が、特に注目されるところである。

³ 〈公財〉矯正協会 HP 〈<http://www.kvousei-k.gr.jp/>〉によれば、『監獄雑誌』なるものについて、次のことが判明する。これが上記『監獄学雑誌』か否かについては不明であるが、nacsis webcat は、『監獄雑誌』の変遷前誌を『監獄学雑誌』とするので、これでよいのではないか。

「監獄雑誌 / 警察監獄學會 [編]<カンゴク ザッシ>. -- (AN00327493) -10 巻 6 號 (明 32.6) . -- 名古屋 : 警察監獄學會, -1899 注記: 記述は 5 巻 1 號 (明 27.1) による ; 変遷前誌: 監獄学雑誌 継続後誌: 監獄協會雑誌 = Bulletin of the Society of Penitentiary 著者標目: 警察監獄学会<ケイサツ カンゴクガツカイ>」

・明治 21 (1888) 年 3 月 「大日本帝国監獄事業ノ改進黨ヲ翼賛スル」ことを目的として、「大日本監獄協会」が創立される。・明治 21 年 5 月 「大日本監獄協会雑誌」を創刊する。・明治 32 年 7 月 「監獄雑誌」と合併して「監獄協会雑誌」[第 12 巻第 1 号~第 35 巻第 10 号]と改称する。・明治 32 (1899) 年 10 月 「日本監獄協会」と改称する。・明治 33 (1900) 年 4 月 「監獄協会」と改称する

⁴ 本 HP 別稿「警眼社社主田山宗堯とは誰ぞ—『警察協会雑誌』との関連をめぐって— 明治警察史の一齣—」〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatvoshi/tayama.pdf>〉

⁵ 『不眠不休 警察眼』第 1 号には、巻頭に、発刊の辞、「小松原英太郎君 [1852~1919] ノ祝辞」、「清浦奎吾君 [1850~1942] ノ祝辞」、「末松謙澄君 [1855~1920] ノ祝辞」、「三間正弘君 [1836~1899] ノ祝辞」、「高橋伸次君ノ祝辞」、「窪田静太郎 [マ、1865~1946] ノ祝辞」、梅謙次郎 [1860~1910]「警官ハ宜シク法律ヲ学」が掲載され、その後、「講義、問答、小説。雑録、雑報」が掲載されていると聞く (現物未見)。

【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）（令和 4（2022）年 8 月 10 日追加）

- ・「法制史学者著作目録選」中「明治警察史コーナー」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉
- ・「松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄一本 HP 収載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』検討資料」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui002.pdf>〉
- ・「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』（増訂三版、明治 25（1892）年 2 月 18 日刊）」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>〉
- ・「大森鍾一『直興遺篋抄』—「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf>〉
- ・「川路大警視青山墓前の頌徳碑検討一斑（碑文全文、付句読点文、書下し文）—故陸軍少将兼大警視正五位勲二等川路君墓表編修副長官従五位重野安繹撰— 一明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kawaji002.pdf>〉
- ・「佐和正関係文献抄—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawatadashi.pdf>〉
- ・「坂元純濤、國分友諒両氏の墓所について—中原英典氏のお問いかけを追って—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakamoto001.pdf>〉
- ・「国分友諒顕彰碑について—原田弘先生のお教えに接して—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshoji.pdf>〉
- ・「篠崎五郎関係資料抄—台湾出兵時の徴集隊指揮副長の一人— 一明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shinozaki.pdf>〉
- ・「後藤松吉郎とは誰ぞ—明治警察史・日本統治下台湾警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/goto001.pdf>〉
- ・「裁判医学校乃至警視医学校関係文献一斑—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saiban001.pdf>〉
- ・「『無冤録述』検討一斑—江戸期及び明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf>〉
- ・「続・『無冤録述』の初歩的検討—江戸期及び明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsuzoku.pdf>〉
- ・「ヘーン大尉関係文献抄（再訂稿）」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hoen001.pdf>〉
- ・「明治中葉警官練習所訳官久松定弘等及び筆記者井土経重（霊山）検討一斑—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yakkan.pdf>〉
- ・「岩瀬忠震関係文献抄（六訂稿）—向島・ヘーン大尉表功碑探訪余聞—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/iwase001.pdf>〉

- ・「内務省警視局御用御書物師須原鉄二とは誰ぞ—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/subara.pdf>〉
- ・「清水書店とは何ぞや—須原鉄二との関連で—明治・大正警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shimizushoten.pdf>〉
- ・「須原鉄二と清水書店創業者葉多野太兵衛について—明治・大正期出版業史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hatano001.pdf>〉
- ・「警察監獄学会及び『警察監獄学会雑誌』検討一斑—明治警察史の一齣—」（本稿）
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kangokugakkai.pdf>〉

【関連事項】（令和4年8月10日追加）

- ・法制史学会： 〈<https://www.jalha.org/>〉
- ・国立国会図書館： 〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和4（2022）年5月19日開始）
〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー（令和4（2022）年4月1日追加）
〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉
- ・CiNii： 〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉（【[2022] 4/18 更新】CiNii ArticlesのCiNii Researchへの統合について）、〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉

（了）